

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県北会場>

科目 ⑪保護者との連携・協力と相談支援

- ◆ 保護者それぞれ価値観が違い、生き方も様々であることを理解し、思いやりをもって関わる大切だと学んだ。支援とは「できるかもしれないと思ってもらう関わり」というところに共感し、そういう存在として関わっていきたいと感じた。子育て環境の変化に応じた柔軟な支援を考えていきたい。また、グループワークを通して、コミュニケーションの取り方を体験し、思いやりと安心感の輪を広げる重要性を実感した。
- ◆ 子育ての社会環境の変化により、保護者の子育ての不安感、負担感が増加している中で役割は益々大きくなっている。柔らかな関係をもちながら、誰を支えているかを意識し支援することが大切である。保護者もほめる、認めることが子育ての自信に繋がっていくことが大切であることが分かった。保護者のありのままの気持ちを認めつつ、感情に巻き込まれないように注意し、保護者に決定権があることを理解することが大切だと思った。伝えることは、伝えたいことではなく伝わったことが事実(真実)だということを理解し、関わるのが大事であると思った。
- ◆ 子育ての社会環境の変化で保護者の子育ての不安感、負担感が増加し、支援員の役割が大きくなってきていることや、保護者の子育てをほめる、認めることが保護者の生き方をほめることにつながり、保護者の子育ての自信になるということを学びました。思いやりをもって話を聴くこと、あるがままを認めて不安や悩みを共感しあうことが安心感を生み、保護者との信頼関係に繋がる大事なことだということや、子育てにおいては保護者を非難したり否定したりしないこと、行動の決定も保護者自身に任せるということを理解しました。
- ◆ 子育て支援という言葉が多く使われるようになり、私たち支援員は日々の子どもの姿をそのまま保護者に伝えていくことが大切であることが理解できた。また、同じ子育てをしてきた“お母さん”という目線で話を聞くこと、特に傾聴することの大切さを学んだ。保護者からの相談に対してはその答えを出そうとせず、保護者の思いに共感して受け止めることが大切であると思った。子どもを一人の人間とみて、児童支援員としての質を高めたい。
- ◆ 子育てにおける社会環境の変化に沿った保護者との連携、協力、相談支援など、講義の中で実際に保護者と対峙した際の対応スキル等を学ばせていただきました。グループワークを通して、意思伝達における際の具体的な“身振り”や“視線”、それに伴い生じる“雰囲気”や“印象”を感じ取ることを学ばせていただく中で、同じ講義を受講されていた、それまで面識のなかった方との交流も生まれ、全体的な雰囲気も暖かく、楽しみながら学ばせていただきました。